

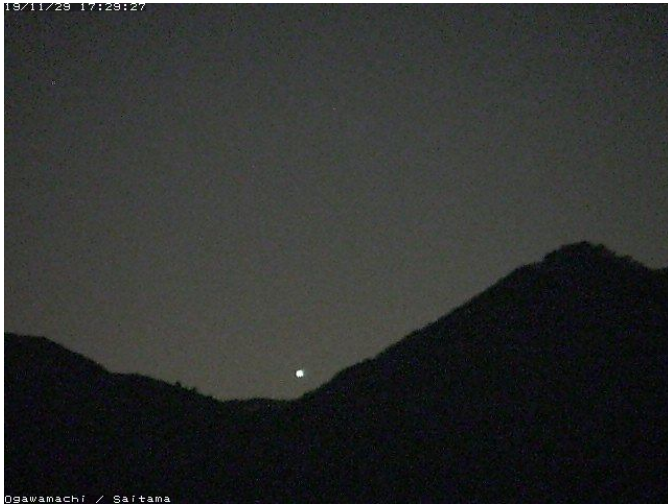
「黄道と太陽系天体(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

11月29日の夕方、黄道(天球上の太陽の通り道)に沿って、太陽系天体が一列に並んで見えた。左上から、「土星」「月(月齢3)」「金星」「木星」の順だ。



最初に沈んだのは「木星」である。木星は外惑星(地球よりも太陽から遠い惑星)なので、一晩中見えることも多いが、この日はたまたま早く沈む位置にあった。小川町(埼玉県比企郡)から見ると、小川三山の「笠山」(写真右側)と笹山(左側)の、ちょうど鞍部(コル)に沈んでいった。



次は「金星」だ。金星は内惑星なので、見かけの位置が太陽に近く、日没直後(宵の明星)か、日の出直前(明けの明星)にしか見えない。「金星が真夜中に見える」というのは絶対にならぬ現象だ。この日も17:40過ぎに、早々と沈んでいった。



天体は地平線に近づくと「大気減光」によって光度が落ちる。しかしさすが金星だ。沈む寸前まで、燦然と輝き続けていた。山は小川三山の真ん中の笹山だ。



これが「稜線に半分沈んだ金星」恒星とちがって、惑星には「見かけ上の面積」があるので、月と同じように「半分沈む」という一瞬が存在する。



驚いたことに、稜線に沈んでも金星はまだ光り続けていた。木々の葉が落ちて、その隙間から見えていたのだろう。面白い一瞬を撮影できた。